

球磨川防災フォーラムを「いつか来る 大水害を 乗り越える」と題して 平成29年5月20日に人吉市で開催！

- 球磨川では、過去数年大きな洪水に見舞われていない一方で、全国各地では大雨による大水害が発生しており、球磨川の低い治水安全度の現状も踏まえ、大水害に備えた被害最小化の取組の推進や、流域をあげて防災意識を高く維持しておくことが急務となっています。
- 本年3月29日に想定最大規模の洪水浸水想定区域を公表したことを受け、災害リスク情報の周知の観点から、新しい取組として水防災意識社会の再構築に向けた防災フォーラムを開催しました。
- 本フォーラムでは、防災に関する専門家、気象に関する専門家、先進的な防災対策であるタイムラインの検討・運用に取り組む市村長、河川管理者による話題提供とパネルディスカッションを通して、流域住民も参画のもと水害への備えを共有しました。

1 水防災意識社会の構築に向けて

(公財)リバーフロント研究所の金尾代表理事から「水防災意識社会の構築に向けて」と題して基調講演を頂きました。近年、全国各地で発生している大水害の状況、水防災意識社会を構築する上で行政、住民、企業等の各主体に求められる課題から、事前の備えとして、施設の能力を上回る洪水による浸水を軽減を図り、避難等のソフト対策を準備することの重要性をご説明いただきました。

2 球磨川流域へお住まいの方への情報発信

八代河川国道事務所からは、球磨川の災害リスクとして、過去の水害、想定最大規模の洪水浸水想定区域を説明し、避難等に活用できる情報について紹介を行いました。

3 いつか来る大水害に対して必要な備えや心構えについて考える

パネルディスカッションでは、コーディネータとして松尾一郎氏(NPO法人 環境防災総合政策研究機構 防災研究所副所長、東京大学客員教授)、パネリストとして栗原めぐみ氏(RKK熊本放送 気象キャスター)、松岡隼人氏(人吉市長)、柳詰正治(球磨村長)を迎え

1. 自己紹介、それぞれの取り組み、水害対策
2. 水害発生！ 地域の被害は？地域の課題は？
3. 市民や村民を守るため、どう備えるか
4. 流域の様々な主体がスクラムを組んでやるべきことは何かの4つの観点から議論を展開いただきました。

「災害リスクを共有し予め備えること」、「避難所の過ごし方を工夫するなど前向きに防災を楽しむこと」、「地区ごとに避難の計画を検討し、自助・共助・公助で取り組むこと」、「タイムラインも活用し防災に関心を持ち意識を変えていくこと」、「取組を通じて連携し、深め、それをひろげていくこと」など、それぞれの立場から備えとして重要な考えをお示し頂きました。



松尾一郎氏

松岡隼人氏

柳詰正治氏

栗原めぐみ氏

金尾健司氏